

令和6年度（2024年度）第1回東海市男女共同参画審議会 会議録

- 1 日時 令和6年（2024年）6月25日（火）午後2時から3時30分まで
- 2 場所 東海市役所403会議室（4階）
- 3 出席委員（9名）
会長 末盛 慶、会長職務代理 金子 典代、上尾 久美子、松田 剛
大村 景子、荒木 映、早川 純子、寺島 里美、蟹江 眞由美
- 4 欠席委員（3名）
間瀬 保英、菅野 勝紀、森岡 由美
- 5 公開、非公開の別
公開
- 6 傍聴者数
1人
- 7 会議日程
 - (1) 開会
 - (2) 議題
 - ア （仮称）男女共同参画プランⅣについて
 - ㊦ 策定方針・スケジュール（案）について
 - ㊧ 市民意識調査（案）について
 - (3) 報告
 - ア 男女共同参画プランⅢについて
 - ㊦ 取組み状況について
 - ㊧ 成果指標（令和5年度分）について
 - (4) その他
 - (5) 閉会

8 会議内容

(1) 開会

(事務局)

ただいまより、令和6年度第1回東海市男女共同参画審議会を開催します。本日の司会を務める市民協働課の仙敷です。令和6年4月1日より機構改革により旧女性・子ども課から総務部の市民協働課に担当課が変更しておりますのでご承知おきください。

年度の切り替わりにより委員の変更がございますので報告させていただきます。前任の守委員に変わり上尾委員が、林委員に変わり荒木委員が新たに委員となっております。また、本日の会議の欠席について、間瀬委員、菅野委員、森岡委員から連絡を頂いておりますので合わせてご報告させていただきます。

本日は年度最初の会議のため、名簿順に自己紹介をお願いします。

【末盛会長より名簿順に自己紹介】

【事務局より自己紹介】

(事務局)

本日の会議では、計画策定支援を委託しております株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の江口様にもお越しいただいております。

【株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所より自己紹介】

(事務局)

以降の審議会にもご同席いただく予定のため、よろしく願いいたします。

本日の会議は公開対象で、傍聴者は1名お見えになっています。会議録は市のホームページに公開となります。末盛会長からのご挨拶の後、以降の議事進行をお願いします。

(末盛会長)

本日はご多忙の中、審議会にご出席いただきありがとうございます。

先日ジェンダーギャップ指数が公表され、日本は156か国中118位とかなり低い状態となっています。健康と教育の点数が高いことは素晴らしいですが、政治と経済の数値が低く、政治はイスラム圏並みの数値となっています。

東海市の中で性別に関わらず、皆さまが心地よく過ごせるようにこの審議会が行われています。率直なご意見をいただき、少しでも議論を実りあるものにしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(2) 議題

ア (仮称) 男女共同参画プランⅣについて

㊦ 策定方針・スケジュール (案) について

【資料に基づき事務局より説明】

《意見等なし》

イ) 市民意識調査 (案) について

【資料に基づき事務局より説明】

(末盛会長)

市民・事業所の方々の意見を取り入れながらプランⅣを策定するもので、アンケート調査が7月中旬からと近い時期に開始されます。調査内容や聞き方、表現についてなどどのような点でもかまわないのでご意見をいただけると幸いです。

事業所などアンケート調査の回収率はどれくらいでしょうか。

(事務局)

50%程で、令和5年度が50%、令和4年度が約41%、令和3年度が約52%となっています。

(末盛会長)

調査対象は増やすのでしょうか。

(事務局)

以前は東海商工会議所の会員で、従業員数30名以上の事業所を対象に実施していましたが、市内全体の事業所の意識を聞くため、会員以外も対象とする考えです。当時は133事業所でしたが、今回は350事業所程度を予定しています。

(金子委員)

WEBアンケートは二次元バーコードを記載し実施することですが、紙アンケートよりWEBアンケートは回答率が低くなる傾向があります。

(事務局)

総合計画のアンケートでは大きく変わらなかったようで、WEBアンケート回答率は20%程でした。今までの実績で顕著な数値はありませんが、回答の利便性向上のため気軽に回答してもらえるメリットも考えられますので、併用する考えです。

(金子委員)

花の種等のインセンティブはあったのでしょうか。

(事務局)

ございません。

(金子委員)

そのような中で20%はすごいと思います。

(末盛会長)

紙アンケートを配り、配った紙アンケートに二次元バーコードが記載されており、WEBからも回答できるということですね。

(金子委員)

3ページの性別の聞き方について、「男性」「女性」と「回答しない」の選択肢ですが、「回答しない」よりも「その他」の聞きの方がよいのではないのでしょうか。

(末盛会長)

「統計上必要ですので、戸籍上の性別でご回答ください。」と書いてありますので、これも1つの聞き方だと思います。

しかし、「回答しない」であると冷たい印象があるので「回答したくない」など柔らかい表現にすることも一つです。あるいは、「統計上必要ですので、戸籍上の性別でご回答ください。」を削除して「そのほか」とするのも一つです。

目的やどのようなデータが欲しいかで判断する必要があります。男女比率を把握したいのであれば、注意書きを書いた上で「回答したくない」とし、LGBTQの現状を見える化したいのであれば、「統計上必要ですので、戸籍上の性別でご回答ください。」を削除して、「そのほか」とした方が良いと考えます。

(事務局)

LGBTQの方の数値を把握することまでは想定しておりません。

(金子委員)

L G B T Qの方の割合は少ないので、問題にはならないと思います。

(早川委員)

回答しなくても、マルをつけなくても同じなので、なくてもいいのではないのでしょうか。

(金子委員)

調査で把握したいものはL G B T Qの方の数値ではないと思います。

(事務局)

持ち帰らせていただき、「回答したくない」または「そのほか」のどちらかの案に決めさせていただきます。

(末盛会長)

事業所アンケートについて、松田委員から回収率の向上についてなど何かご意見はありますか。

(松田委員)

もともとの母数はどれくらいでしょうか。

(事務局)

市民アンケートは16歳以上無作為抽出2,000人、事業所アンケートは市内に本店又は支店がある従事者30人以上の約350事業所です。

(松田委員)

市民アンケート対象者数が3,500人から2,000人になりましたが、1,500人減らす影響はどのようなもののでしょうか。

(事務局)

統計学を踏まえて設定している本市のアンケート調査数の指針に基づいており、影響はないと考えています。市民意識の把握については、本市の人口に対して2,000人と指針で示しております。

(松田委員)

無作為といいつつ、年代ごとで区分しているなどあるのでしょうか。

(事務局)

完全な無作為抽出です。

(松田委員)

偏りなどの影響が出るのではということ懸念していますが、問題ないということですね。

(事務局)

今回、計画を策定するための意識調査であることから2,000人を対象としております。本市の人口であれば、2,000人に配布すれば、適正なサンプル数が得られますが、計画の指標等の数値を毎年取得するアンケートの場合は対象者数が変わってきます。

また、プランⅢの進行管理アンケートでは、これまでの継続性の観点から3,500人を対象とする必要もあります。

アンケートの目的によって、対象者数が異なるため、その都度説明させていただきたいと思っております。

(金子委員)

LGBTQの認知度を質問して、その解説を質問の真下に入れるのですか。

(事務局)

検討を行い、意味を知らない人にまずは理解してもらうことも必要と思っております。

(金子委員)

調査で初めて知る人もいますので、そのような聞き方もあるかもしれません。言葉を知っていると聞いたことがあるでは意味が違います。言葉を聞いたことがある人は多いと思っております。

(株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所)

国のアンケートに同様の設問はありませんが、三河エリアではこのような形で聞いている自治体が多いです。結果は実施した時期や時流、自治体によって異なります。近隣市では「内容まで知っている」は全体で5割程でした。解説については直下ではなく、調査の最後に掲載するという場合や設問の本文中に説明を入れる場合もあります。

(末盛会長)

アンケートが周知のツールでもあるので、大事なことです。ただ、「チェック」とあると「チェック」を見てから回答するということになるので、「参考」にしたり、設問とは少し距離をとって掲載したりの方がクリアなデータになると思います。

(松田委員)

問10と同じだと思うので、問10の方に質問を合わせてもいいのではないかと思いますのでご検討いただきたいと思います。

(末盛会長)

同じ調査内であれば、聞き方は同じ方が良いです。説明のページを変えるなどでもいいかと思えます。質問の独立性を保てるかと思えます。

(事務局)

用語の近くに説明を付けたのは、問31と問32が言葉の意味を知っていることが前提の設問であり、言葉を知らないと回答しにくいことが理由です。ページをまたぐ形で、「チェック」も「参考」に修正して進めていくのはいかがでしょうか。

(松田委員)

巻末に用語説明を付けても見ない方もいらっしゃると思うので、ページをまたいで、目につく部分にあるといいのではと思います。

(金子委員)

16ページの間33の「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」には用語解説は付かないのでしょうか。

(事務局)

問36にも言葉が出てきますので、問38の後ろか、ページをまたぐことができれば、問37の上に入れるよう検討します。

(末盛会長)

問37の上がいいのではないのでしょうか。自由回答は記入しない人が多いことが想定されるので、その下よりは途中に入れた方がよいと思えます。

(3) 報告

ア 男女共同参画プランⅢについて

㊦ 取組み状況について

【資料に基づき事務局より説明】

(末盛会長)

主管課を見ると多くの課が関わっていることがわかると思えます。一つ一つの課が関わるどころで見ると、防災リーダーの女性割合は現場の課題です。南海トラフ地震が起きた際に、このままで大丈夫なのかということもあります。一つ一つが生活に繋がっています。

(大村委員)

7 ページの防災リーダーの育成について、以前講座に参加しようと思った際、11回連続で参加するというのが難しいと感じました。

参加したくてもできない方のために前期と後期に分けるなど、短期間でできるようにしていただきたいです。今年は8回になっていますが、それでも多いと思います。

以前、市民館の利用者を対象にした防災訓練に参加しましたが、各小学校への一時避難を想定して体育館内の割り振りなどを行うゲームが勉強になりました。勉強することが大切です。リーダーを育てるといふなら、開催期間等について考えていただきたいです。

(事務局)

担当課に伝えていきます。アンケートの項目でも12ページで男女共同参画の観点から地域の防災について聞く設問を入れてあります。防災分野における男女共同参画、特に女性の支店は重要であると考えていますので、その入り口となるリーダーの育成に関する課題は担当課に伝え対応させていただきます。

(末盛会長)

昨今は働いていて忙しい方が多く、11回すべてに参加できる方は少ないかもしれません。もう少しコンパクトにしてもいいかと思います。

(寺島委員)

周知方法については、広報紙や啓発活動をホームページに掲載したり、公共施設にリーフレットを置いたりすることが主な取り組みで、スーパーなどでの周知は行っていないのでしょうか。

(事務局)

一部名鉄の駅等にチラシを置いていますが、スーパー等には置いていません。

(寺島委員)

公共施設は行く人が限られると思うことから、スーパーの方がより多くの人の目に付きやすいと思います。

(末盛会長)

10年程前は断られたとお聞きしておりますが、時代が変わりましたので、融通が利くのではないのでしょうか。相談窓口の認知度がなかなか上がっていない状況もあるため、必要なことだと思います。

(事務局)

今回、事業所アンケートは対象を拡大して実施します。アンケートに回答してもらえる事業所は比較的意識が高いことを想定すると、アプローチもやぶさかではないと考えますので、情報を集めて検討してまいります。

(蟹江委員)

大村委員と同様、女性の参加者が少ないのもっと増えるといいと思いました。やはり災害時は女性の防災リーダーが多い方がいいと思います。

(寺島委員)

講座を受講し、防災リーダーになることで災害時などに責任が発生するということがありますか。

(事務局)

受講者には講座終了後、資格を持っていることを地域の方に情報提供していいか確認し、そこで本人が了承すればコミュニティ単位で情報提供されます。地域から見ればそのような方がいらっしゃれば頼りがちになることもあると思います。一方で、行政としては、避難場運営等においては地域やコミュニティなどの組織としてお力添えいただきたい部分があります。その中のキーマンになる可能性はあるかもしれませんが、その方お一人に負担を強いるようなことはないと思います。

ご意見いただいたような視点にも配慮しながら、講座の募集をかける必要があると感じました。担当の防災危機管理課と情報共有してまいります。

(末盛会長)

大事な視点だと思われれます。各地域で女性3～4人以上集まって、いざという時に備えた話し合いができたり、災害時には判断ができたりするようなグループができるような企画になるといいと思います。

東海市全域で集めて実施するのではなく、地区ごとにキャラバン方式で実施する方が、地域ごとの関係の形成も期待でき、効果的かもしれません。

(大村委員)

小中学校での防災訓練があると思いますが、避難するだけではなくて、体育館を地域に開放することを想定して、どこに誰を配置するかというのを高学年のお子さんにやってもらうことなどできるのではないのでしょうか。

防災に関する授業はやっているのでしょうか。

(事務局)

総合防災訓練で、体育館の中で段ボールベッドを組み立てるなど、災害時の避難所運営訓練もやってはいると思います。しかし、そこに参加するのは地域の役員が中心になります。先ほどの防災リーダーの講座も「各地域から人を出してください」ということで行っているのが現状です。

(上尾委員)

日赤奉仕団に入っていますが、それぞれの地区で参加者が異なります。受けたい講座は、1年通して日にちが決まっていると参加できません。10回参加しないといけないものは、8回参加しても残りが無駄になります。

(事務局)

都合がつかない時はY o u T u b eなどWEBで視聴することができるなど、今後やり方も工夫していく必要があると思います。

(末盛会長)

オンデマンドとなると女性の参加が増えると思います。

(イ) 成果指標（令和5年度分）について

【資料に基づき事務局より説明】

(末盛会長)

資料4をみると8年間の流れがわかります。例えば、2番目「子育て支援センター事業の利用者数」は基準値である平成26年度は8万人近くが利用していましたが、コロナ禍で令和5年度には約5万人に減少していることなどがわかります。また、8番目「ジェンダーの意味を知っている人の割合」は平成26年度には16.5%でしたが、令和5年度は77.2%と認知度が上がっていることなど、東海市の動きがわかるものとなっています。

12番目「市の管理職に占める女性職員の割合」は伸び悩んでいます、13番目「女性の管理職がいる事業所の割合」は数字上では伸びがいいようです。15番目「町内会・自治会の正副会長の女性の割合」は増えてはいますが、もう少し伸びて欲しいと感じる現状です。

16番目「DVに関する相談窓口を知っている人の割合」は広報・周知してもなかなか認知度が上がらないということで長年課題になっています。

こうした中、今回、スーパーで周知を行うためのチラシ等の設置についてアイデアが出ていました。

(大村委員)

18番目「ひとり親家庭等への就業相談件数」は「悪化」とあります。ひとり親世帯は増えていると思いますが、色々な支援や情報がある中で、ある程度対策を打つことが可能となっています。急にひとり親になって困ったという人は少ないのではないかと思います。

(事務局)

数値が低下した要因は定かではないですが、就業支援給付金の制度で給付金を受給している方は減っています。ただ、この指標については相談件数の増減で一喜一憂できない部分もあり、見えない部分をどう捉えるかということも重要だと考えています。

例えば、相談したい人が減っているのか、窓口がわからないから相談できないのかなど、実態が掴みにくいところがあります。どう捉えるべきか悩みながらの部分もあります。

こども課からの情報も整理しながら、現状としてよりよくなるよう努力しつつ、プランIVでどのような指標がよいのかも頭の片隅に置いた上で進行管理して参ります。

(末盛会長)

学校現場での女性管理職登用の取組みはどのようなものがあるのでしょうか。

(荒木委員)

実際に正確な人数は不明で、男性管理職の方が多いものの、肌感覚的には女性管理職は増えています。校長・教頭の前の役職である管理職の方々が試験を受けるにあたって、女性だけの勉強会が行われていると聞きます。

(末盛会長)

企業はどうでしょうか。

(松田委員)

女性管理職は増えています。女性対象の研修もあります。ただし、個人で見ると管理職に昇進することを望む人もいれば望まない人もいます。

(末盛会長)

行政はどうでしょうか。

(事務局)

横ばいの状態です。以前は女性に特化したキャリアプランもありましたが、

現在は男女関わらずという考えの中で女性の活躍を意識しながら取り組んでいます。女性という理由での研修はどちらかといえば変わりつつあり、今後注視が必要かと思えます。

(末盛会長)

東海市はデータを取りながら状況を見ています。この先もこのようなデータを見る機会があると思われますので、引き続きよろしくお願ひします。次第の「その他」についてお願ひします。

(4) その他

(事務局)

【当日配布資料について事務局より説明】

(事務局)

最後に、次回の審議会開催日は10月中旬を予定しています。準備が整い次第ご案内します。

(末盛会長)

その他言い残したこと等よろしいでしょうか。

では、本日の議題はすべて終了とします。

(事務局)

以上を持って第1回東海市男女共同参画審議会を終了とします。長時間にわたるご審議ありがとうございました。会議録は会長確認の上公開とします。

(5) 閉会